

マインクラフト、擬人
化された世界に転移し
て。

光車

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

マインクラフトの世界に転移してしまった主人公が元の世界に戻る為に戦う物語。
不定期更新です。

目次

姉妹の二人と迷宮

| | |
|-----------------|----|
| 目覚め | 1 |
| 『その防具は装備できません』 | 9 |
| 二刀流なんて幻想なんだ | 17 |
| 蜘蛛の子『あかり』 | 24 |
| 初めての明確な負け | 30 |
| これが、“恋”？ | 36 |
| 黒の騎士 | 43 |
| ネザー | 47 |
| 漆黒の龍騎士と覚醒、無力の自覚 | 53 |
| 龍騎士弱いじゃん。 | 60 |
| 暗黒世界 | 64 |

目覚め

……。

う。

ここは。

……へ？

な、なんで？

家で寝てた筈なのに。

なんで草原に立ってるのさ。

……なんか体にも違和感。

見下ろす。

!?

緑色のパーカーに小さな胸!?

僕は男だよ!?

どうして!?

……。

あ、水がある。

覗き込む。

すると。

そこにあったのは、よく見るクリーパーの擬人化した姿だった。

………!!?????!

!!?????!

じゅうー

つつ!

………お、落ち着け!

体が破裂しそうになるのを必死に止める。

………。

ふう、落ち着いた。

よく見れば、なんか髪の色が違うよね。

黒になってる。

そういえば。

クリーパーって火薬をドロップしたよね。

んんん。

手に意識すると、火薬が出現する。

……ワオ。

あの後、色々試してみても、出来たことは。

TNTを簡単に作れました。

砂も使わずに。

ちなみに土は手で壊せなかった。

かと思ったら、TNTで簡単に壊せる。

つまり。

僕が使えるアイテムは、TNTで壊せるものだけ。

縛りかな？

……そういえば、何処かでTNTでダイヤモンド壊せるって聞いたような……。

とりあえず、色々試してみるか。

……みーつけた。

木。

ていつ！

(TNTを投げました)

ドン!

……あ、木がブロック化した。

爆発したところだけだけど。

まあ、木があれば問題ない。

……。

……。

……。

クラフトってどうやってやるの？

とりあえず、線をイメージして、取り込んだブロックをそこに置く！

ぴかーん！

え。

光った!?

……もしかして。

取り出す。

すると、原木から木材になっていた。

……やった。

ヤツタ〜！

これでクラフトとか出来る。

次に、こうやって。

……………出来た。

作業台完成。

最後にこれで剣を作る。

棒に、木材で……………。

完成！

装備もできるね。

よし。

これなら行け「うおおおお」うひゃあ！

しゅー

ちよ、。

……………。

ふう。

落ち着いた。

……この、ゾンビめ！

バシっ！

バシっ！

バシっ！

……。

ふう。

これで大丈夫かな。

……あつ。

「」「」「」「」「」「」「」「」

……逃げろー！

ふう、ふう、ふう。

なんとか逃げ切れた。

まず、石を取得しよう。

村の方は期待しないでおこう。

さっきのゾンビも擬人化してない奴もいた。

けど、してた奴もいた。

つまり、どっちもモンスターとして扱われていると思っただけ。

だから、村人達も立ち向かってくるだろう。

少なくとも、家には入れてくれない筈。

……はあ。

野宿かあ。

とりあえず、TNTで破壊。

石と土を入手。

ついでに木もある程度入手。

木でチェストを作って、石で剣を作る。

ちなみに、さつき木でツルハシを作ってみたけど、石を壊すことは出来なかった。

結局、TNTしか使えない。

……建築は出来る、かな？

トン。

出来た。

一応土は置けたし、建築は出来るだろう。

整地は出来ないけど。

いや、出来るか。

……まあ良いや。

気ままにやってこう。

元の世界に戻る為に。

『その防具は装備できません』

……。

これ、どうなるんだろう。

HPとかどうなるのかな。

しゅん

!?

視覚の下の方にハートが出た。

五つ。

……そこはクリーパーと同じかあ。

じゃあ、空腹度は？

……シーン。

あ、こつちはないのね。

さて。

牛を狩るか。

皮をある程度集めた。

肉も結構集まった。

さて、拠点に戻って。

来ました。

で、クラフト。

皮装備って、なかなか使わないんだよね。

ただ……。

今の状態だと、装備そのものが重要………？

ちよつと待て。

『その防具は装備出来ません？』

ちよつと。

どういう、こと？

パーカーを脱ごうと、して。

気付いた。

気付いてしまった。

パーカーが脱げない事に。

まさか、パーカーが標準装備？

た、耐久度。

それと同時に、鎧のマークが現れる。

10個分。

まじ、か。

普通に強い。

つまり。

下手したらダイヤモンドより強いと？

いや、防御力は？

+2

弱っ！

破壊されないだけ、か。

エンチャントは………。

ダメージ軽減Ⅰ

うん。

修繕Ⅴ

え？

火炎耐性Ⅴ

……あれ？

朝？

なんかベツトに寝転がった瞬間意識が飛んだんだけど、もしかしてそういうもの？

今の拠点は、全部丸石で囲ってある。

だから、誰も入ってこない。

しかも地下。

人も来ないでしょ。

……下に掘り進めますか。

ドン！

ドン！

ドン！

ドン！

どんどん爆破させて、地面を掘って行く。

……鉄鉱石も結構ゲット。

ダイヤも4個取得。

……いつのまにか岩盤まで来てた。
戻ろう。

ふう。

じゃあ、武器を作ろうか。

まずは、鉄で剣を作る。

ダイヤでも作る。

基本ダイヤの剣2個で戦うかな？

鉄の剣は予備。

ブーツは装備出来そうだし、装備する。

レギンスは………。

チエーンなら出来るかな？

でも、作り方知らないし。

あ、皮のレギンスは。

『この防具は装備出来ません』

やっぱり。

さて。

鉄鉱石は全部インゴッドに変えて、と。

これで大丈夫。

チエストをラージにして、入れる。

……インゴッド2スタックか。

多いな。

まあ、これでロストしても大丈夫でしょ。

……あれ？

そういえば、復活するのかな？

復活しなかったら終わるんだけど。

……死ぬのかな？

だとしたら冗談抜きでヤバイ。

死ぬかもしれないって言うだけで。

……プレッシャー。

そうだ。

戦闘だってリアルなんだ。

体術とかだって使える。

生憎僕は小説の主人公みたく剣術やってましたとかじゃない。

けど、この世界でそれを磨く事も出来るはず
なら。

やろう。

最低限、死さないように。

二刀流なんて幻想なんだ

忘れていた。

僕が土ブロックですら壊せない程非力な事を。

片手だと剣が振れない。

よく考えればそうだ。

ブロックを破壊する為にある程度の筋力を要求する。

そして、その筋力がなければ？

剣なんて振れる訳がない。

だから、筋トレを始めた。

数日後。

なんか直ぐに筋肉が増えたんだが。

と言っても、ダイヤの剣を振れる程度の筋力だけど。

それと、それだけの筋力を持ってさえ、土ブロックは破壊出来なかった。

モンスターにはできない仕様なんだよ、きつと。

さて。

二刀流、挑戦しますか！

………うわっ。

よっ、わあ。

トス。

振れない。

振り回される。

片手なら、振れる。

けど、二刀流にすると振れない。

……う。

二刀流は出来ないか。

諦めよう。

………。

やりたかったな。

二刀流。

あの後何度かやってみた。

けど、出来なかった。

二刀流は幻想だったんだ。

次に矢。

これは結構出来た。

結構飛ぶよ。

手から小さな爆発を起こさせて、発射。

そして、当てる。

先端部分に小さなTNTをくつつけて、そこから爆破。

大ダメージ。

そんな感じ。

結構使える。

どンドン爆破していくよー！

…………ハッ！

今僕は何を…………。

…………気になるけど良いや。

とにかく、やってみよう。

ゾンビを狙う、

放つ。

爆破。

ドン！

そんな音と共に、ゾンビが死ぬ。

やった！

出来た！

これで僕もしつかり戦える！

「あ、クリーパーだ」

「よっしゃ、倒すぞ！」

……………!?

何今の!?

振り向く。

そこには人がいた。

走ってくる人間に対し、僕は逃げる。

流石に人を殺す決心はついてないよ！

戦うとも思った!?

流石に戦えないって！

そんな思いも無情に、僕の頭に矢が突き刺さる。

………

!?!?!?!

しゅー

………。

ドツカーーーーン！

うう。

ここは………。

ベット？

もしかして、リスポーンした？

死なないって事かな？

やった！

死なないんだ！

僕は死なない！

アイテムも残ってる。

やったね！

僕は無敵だあ！

(ピンポーン)

見せられないよ！

……………落ち着こう。

何無意味に自爆してるんだ。

まあ、自爆の威力によって死なないという事が分かったただけ良しとしよう。

私は……………。

ちよつと待て。

今何気に私って言わなかった？

僕が？

まさか、死ぬと精神が女の子になると？

……………うん。

死なないだけだね。

なるべく死なないようにしよう。

そういえば今ので試したい事が出来たんだよね。

えい。

ボン！

手が爆ぜる。

手は無事。

………出来た。

これで、戦術の幅が広がる。

これで、死なくなる。

頑張つて死なないようにするぞ！

………なんか目的すり替わってない？

蜘蛛の子『あかり』

今日は、適当にTNTで掘っていく。

ドン！

ドン！ドン！

ドン！

あれ？

廃坑？

探索するか。

うわあ。

蜘蛛多い。

擬人化してる奴はなんか殺しにくいんだよな。

まあ、中身はモンスターって事でなんとかやってるけど。

「あ、あんたは……………」

……………え？

声？

なんで？

振り向く。

擬人化蜘蛛がいた。

うわあ！

剣を振る。

「ちよ、ストップ！」

あ、うん。

「……………ごめん、何かな？」

「いや、何って訳じゃないけど……………」

そう。

でも、

「先にこいつら始末するから、ちよっと待ってて」

「あ、」

TNTをばら撒き、

「え、ちよ、やば」

さっさと退散。

ドツカン！

バンバンバン！

蜘蛛は滅びた。

「さて、で、君は？」

「私は……、北山 あかり。転生者、って言ったらわかる？」

「………僕も同じ。名前は忘れたけどね」

「ええ………？なんで忘れんのよ」

「どうやら転生者だったらしい。」

「にしても、名前覚えてるのか。」

「僕は正直言ってもうどうでも良いと思ったから、言わなかったけど。」

「とりあえず。」

「この世界は復活可能なんだ。だから死んでも良いんだよ。けど、まあ安全マージンは取った方がいいと思う」

「そう言う。」

「……………はあ。そうじゃなくて……。まあ良いわ。とりあえずこの世界は死ぬ事はないのね？」

「そうだね」

それに、

「なら、まあ安全に探せるわね。元の世界に戻る方法」

「そう、だね」

忘れてた。

さて。

この世界のことをある程度伝えた。

分かってることだけ。

すると、直ぐに蜘蛛糸を出せるようになった。

まあ、それは僕も同じだった。

違うのは。蜘蛛糸の種類。

ブロック型の設置できる蜘蛛の巣と、只の糸。

それを瞬間的に生成できる。

それは、余りにも強かった。

蜘蛛糸で拘束して、そこをダイヤの剣で滅多打ち。

そんな無茶苦茶な戦い方をしていた。

本人との相性がいいのかな？

まあ、強い。

……………一緒に暮らす？

「一緒に暮らす？」

「……………えーつと、辞めとくわ。色々迷惑かけそうだし……………」

「そっか。わかった」

じゃあ、行こうか。

さて、と。

あ後は寝て、朝にした。

ゲームじゃあるまいし、この世界の時間は一瞬で過ぎる感じがするだけであり、実際にはそれだけの時間がしつかり進んでいる。

そういうえば、24時間も一緒。

ゲームみたいに数十分で1日とかではない。

まあそれは置いて。

今日は外に出る。

そして、モンスター達を倒して行く。

………?

なにあれ。

黒い擬人化モンスター？

エンダーマン？

そう認識した瞬間。

そいつはこっちに走ってきた。

初めての明確な負け

………？

あれは？

エンダーマンなら走らず、ワープする筈。

その時、視界の左上にHPゲージが現れた。

エンダードラゴンナイト

200 / 200

………ツツ！

ボス級！

エンダードラゴンナイト？

そんなmob、見たことも聞いたこともない。

この世界特有のmod？

でも、それなら、この世界はプレイヤーが存在する事になる。

エンドラ。

エンダードラゴンの擬人化キャラクター？

何故？

何故こんな所に？

……………！

無駄な事を考えているうちに近付かれる。

そして。

僕は、切られた。

うう。

私、！

ち、違う！

僕、だ！

僕、僕、僕……………。

思った以上に精神汚染が酷いよ。

まさかわた、僕がこんな風になるなんて……………。

とりあえず、アイテムを確認……………！

ロスト、してる？

全部ではない。

一部だけ。

ダイヤの剣一本と、鉄の剣二本。

土47個と丸石33個。

それから原木14個。

これだけ、ロストしていた。

重要なアイテムはチェストに入れておいたから、良かった。

ふう。鉄とブロックは痛くない。

でも、ダイヤの剣が少し痛い、かな。

ダイヤはまだ一本ある。

ダイヤも残っていない。

……。

また掘るか。

掘ってきました。

今回はかなり掘った。

ダイヤ14個集まったからね。

運が良かった。

それにしても、あの黒いやつ、エンダードラゴンナイトってなんだろう。つい mod とか考えちゃったけど、そんな筈もない。

この世界固有のものだと考えるのが妥当なんじゃないかな。でも、少なくともHPは、エンドラと全く同じ。

一体なんなんだろう。

あの mob は。

もしや、あれは元の世界に帰る事に関係するものだったりして。

そんな訳ないか。

……よく考えたら、初めて完璧に負けたかな。

人間の時は、ちよつと違った。

相打ちって感じだし。

まあ、どうせなにもわからないんだ。

そんなに気にしててもしょうがない、かな。

ふふ。

……帰れるかな。

元の世界。

帰ったとしても、色々心配なんだけど。

例えば精神とか。

能力とか。

……：気にしても仕方ないか。

気にしないで行こう。

今日は、寝るか。

おはようございます。

……：いつもこんなこと言ってたっけ？

まあいいや。

これからは外の世界を中心に移動するかな。

エンダーマンを倒してエンダーパールを入手しよう。それからネザーでブレイズパ

ウダー、かな。

そうすればわかる筈。

まあ、そこまですらにもわからないなんて事はないだろうな。

そんな事を考えながら、外を歩いていた。

すると。

「ツツ・クリーパーか！」

人間が、いた。

これが、恋、？

「ツツ・クリーパーか！」

そう聞こえて、振り向くと。

そこには人がいた。

ツツ！

つかっこ、いい。

………なんで？

どうして？

なんなのこの気持ち。

初めて見た人に対して、カッコいいって。

別に顔の造形が良いって訳じゃない。

それほど悪くもないけど。

フツメンってとこだろう。

なのに、このきもち。

意味が、わからない。

……………まさか、“一目惚れ”？

イヤイヤ、そんなまさか！

僕は男だよ!?

それなのに男を好きになるなんて……………。

そんなの絶対ないよ！

……………ふう。

一旦落ち着こう。

まあ、なんだかんだで僕って女の子なんだなあ。

そう認識した。

……………で、彼はどうしよう。

剣向けられてるけど。

「アイツらの仇！」

……………え、ちよ！

剣を取り出し、対処する。

けど、流石にこれまで使ってた人には勝てない。

私は防御できなくなり。

ダメージを受ける。

「っ！」

ダメージは少ない。

ハート1・5個分削られた。

でも、こちらのHPはたったの10。

3も削られたらかなり苦しい。

一旦下がる。

そういえば、剣ってブロック貫通できなかつたよね。

土ブロックを二段置いて、防御。

「ツチー」

彼がバックステップで後ろに行き、そのまま転がって前に出てくる。

その間を弓で狙い撃つ！

ドン！

爆発して、彼はそこから消えた。

………あ。

やり過ぎたく
!?!?!?

シュー

ちよ、ストップストップ！

………とりあえずドロップ品は回収、

………返しに行くか。

どこか知らんけど。

何処かなんてすぐ分かった。

地図をドロップしていた。

そこに、彼の家が目印で書いてあった。

だから向かう。

数分後。

着いた。

コンコン。

「ん？誰だ？」

ガチャ

「なっ！テメエなんでこんな所に！」

鉄の剣を向けられる。

「ちよっと、ストップです！」

「な、喋った!？」

……………どうやらこの世界の擬人化キャラクターは喋らない模様。

「まあそんな事は「そんな事は、じゃねえよ!お前はなんだ!」」

……………う、なんか心が……………。

若干涙目に……………。

「ちよ、泣くなよ、悪かったって。……………で、お前はなんなんだ?」

「……………うう、えつと。わた……………私は……………」

僕っていう所を私って言っちゃった。

まあ、そんな事は置いておいて。

名前どうしよう。

……………。

リイでいいか。

「リイです」

「そうか。……………悪かったな。いきなり剣なんて向けて。所でお前は人間か?」

その問いにどのような答えればいいのか一瞬迷う。

だが、直ぐに答える。

「いえ、クリーパーです」

「やっぱりか！」

「……………やっぱり、とは？」

「お前みたいなのやつが沢山いるんだよ。だが、そいつらは全員喋らねえ。だから、どうしようかな、と」

……………ああ、やっぱり喋らないんだ。

あ、そういえば忘れる所だった。

「私はこれを渡しにきたんです」

「ん？……………って、これ！あんどきロストしたやつじゃねえか！」

アイテム返しに来て何が悪い。

「もしかして、返しに来てくれたのか？」

「そうですけど？」

「そうか……………。ありがとな」

ツツ！

顔が沸騰する。

なに、これ！

ただありがとうって言われたただけだよ!?

なのに、こんなに……………。

……ああ、これが好きっていう感情か。

これが、恋。

「う、ううん。当然のことですよ」

なんとか煩惱を追い払い、返答する、

「……そうか。分かった。これの代わりに、俺の家に泊めてやるよ。お前は、家あるのか？」

「じ、自分で作った家なら」

「そうか。じゃ、あんま礼にはならんな」

まあ、そうだね。

けど！

「私は、それでいいです」

「?いいのか?」

「はい」

これで、彼と一緒にいられる。

………一目惚れって怖いなあ。

でも、もう離れられない！

黒の騎士

次の日。

僕……、もう私で良いや。

私は自分が転生者だという事を話した。

「ああ、それであんな風に………」

どうやら納得された模様。

「で、帰りたいか？」

そう聞かれた。

「それは………」

どうしよう。

好きな気持ちがあつて、ここから離れたくはない。

けど、それだけじゃない。

もちろん元の世界に帰りたい気持ちもある。

そもそも、死んだわけじゃない。

もしかして、帰れるのでは？

と、思ったりする。

「……………まあ、良い。そんなときになってから考えれば良いだろ。まあ、心当たりはある」
!?

なんだって!?

「どういふことですか?」

「ああ、今説明してやる」

そして、語られたのは、衝撃の事実だった。

私、ゲームキャラクターになつとるやん。

そうなのだ。

この世界は本来十数分で一日なのだ。

もちろん、この世界の人々が毎回夜に寝るわけじゃない。

だいたい人間は十数時間は普通に起きていられる。

だから、八十から百日程度で寝るらしい。

で、そこからなんだが、この世界には元々プレイヤーと名乗る人々が来ていたのだ。

そして、わからない筈なのに、その人たちが言っている言葉の意味が分かる。

村人達はなぜか商人になる。

不思議現象が沢山起こっていたらしい。

そんな世界なのにもかかわらず、この世界に接続してくるプレイヤーが急に消えたのだ。

そして、それから時間がゆっくり長くなり、今の状態になったという。

それと同時に現れ始めたのが、擬人化mobと例の黒いキラクターだ。

おそらくこの擬人化mobが転生者の受け皿、黒い奴が元の世界に帰る鍵を持っている。

そう考えているらしい。

もちろん、この世界にクラフターがいないわけではないので、クラフトはみんなしている。

念のため言っておくが、この世界にクラフトが出来ない人は居ない。

村人も出来る。

まあ、黒い奴は敵だと言う事は確定。

それは、みんなに共通している事らしい。

生命全てを見境なく殺すのだから。

………そういえば、エンダードラゴンナイトって名前だったな。

もしかや、エンドに行けば何か分かるのでは？

そう伝えた。

「へえ。じゃあ、ひとまずエンドに行く事が目標だな。エンダーアイってのが必要なのか?」

「はい。それを作るためには……。エンダーパールとブレイズパウダーが必要です」
そう答える。

「そうか。それは?どうやって手に入るか……。は、エンダーパールはエンダーマンか。で、ブレイズパウダーは?」

「それは、ネザーのブレイズが落とします」

「そうか。なら、ネザー行かなきゃな」

「そうですね」

そう受け答えして、色々話し合う。

結果。

一緒に行動することになった。

他には、彼、ロクスが持っているアイテムを使用しても良い、という事にも。

そして、ネザー探索が始まる。

ネザー

とりあえずネザーポータルが完成。

「じゃ、行くか」

「そうだね」

ちなみに話してる間に敬語が抜けました。

移動。

地形を取得中……

ネザー。

到着。

「ここがネザーか。熱いな」

「マグマの世界なんだからそりやそうでしょ」

そう、意味もない話しをして、移動する。

「何を探せば良いんだ？」

「ネザー要塞。ネザーレンガ、茶色っぽいレンガで出来た要塞を探せばいいよ」
まあ、意味ある事も含まれているが。

「……………つて、あれじゃねえか？」

「……………ほんとだ」

近くにありました。

その後、丸石ブロックを足場として作った。

10回ほど元の世界との移動を繰り返し、丸石の橋をかけた。

「ここがネザー要塞か。誰が作ったんだ？」

「わかるわけないじゃん。そんな事」

そんな事を言いながら。

で、中に入ったんだけど、中に例の黒い奴がいた。

数人。

「なっ！」

「……………！」

反射的に構える、が。

そいつらはどこかへ行ってしまった。

その後、何処を探しても無駄だった。

何処にもいない。

それが、不安だった。

ロクスは大丈夫だって言うけど、私は大丈夫なんて思えなかった。

さて。

ブレイズは？

「あれは？……見た目的にスケルトンか？」

「そうだね。あれはウィザースケルトン。ウィザーって言うB O S S m o bを召喚する為に必要なウィザースケルトンの頭を落とすの。それ以外には特に意味はない」

あとはウィザーが召喚するとか。

まあ、それだけだ。

「あれは……ガストって言う奴か？」

「そうだね。で、その近くにいる炎の奴がブレイズ」

「あんな所にいたんだな……」

そして、近づいて倒した。

「あら、貴方達は、誰かしら？」

？

「えっと」

「先ずは質問に答えてくださいまし」

「あつはい。私はリイ。クリーパーです」

「俺はクラフターのロクスだ」

「なんか二人組が来た。」

「なんとなく想像はつくけど。」

「貴方達は、ブレイズとガストの擬人化？」

「ええ、まあ……。ですが、何故？」

「さっきからずっとブレイズさんが喋ってるね。」

「ガストさんは喋らない。」

「転生者だから」

「……。ああ、そう言う事でしたか」

「なんかガストさんの表情が変わった。」

「……。……。ところで、そっちのガストの娘は？」

「ああ、こちらは気にしないでください」

「いや、気になるよー！」

気になる。

だって、喋らないもん。

ずっとブレイズさんの後ろで隠れてるもん。

なんで？

……………地味に思考が……………。

「この子も転生者ですわ。ですが、少々人見知り気味でして……………」

「そう言う事、か」

なんだ。

そんな単純なことか。

まあ、いいや。

「とりあえず、ここに用はなくなっただけど、貴方達は何か用があるの？」

「いえ、人がいたので……………」

(コクコク)

あ、首振った。

「そっか。……………なら、一緒に暮らす？」

「ちよ！おま、あそこ俺の家だぞ!？」

「私の元の家を持ってきて使う」

「お、おう」

そして、彼女たちの答えは。

「………わかりましたわ。一緒に暮らしましょう」

そして、私達に二人、仲間が増えた。

漆黒の龍騎士と覚醒、無力の自覚

現在、ポータルを開くためのエンダーアイだけど、三つしか作れてない。

フィンちゃん（ブレイズ）のお陰でブレイズパウダーは問題ない。

けど、エンダーパールがない。

それはそうと、二人の戦闘方法が確立した。

え、私？

私は……………。

なんか足りないんだよね。

妙な感覚というか。

もつとなんかできそうなんだけど……………。

さて。

エンダーマンを乱獲します。

その為に私だけだけど、夜に出てみた。

エンダーマン、厄介すぎる。

ワープがうざい。

で、一応10個は手に入れたんだけど……………。

エリートエンダードラゴンナイト

5000 / 5000

これ、どうすればいいと思う？

いきなり切り込んでくるエンドラナイト（以下龍騎士）。

私はギリギリ避ける。

やっぱり元のマイクラのスピードじゃない。

矢で攻撃。

ダメージが、入らない。

それもそのはず。

弾かれた。

剣に。

爆風も含めて。

嘘でしょ!?!ありえない!

そう思い。

けど、現実是非情。

龍騎士は気にせず私に斬りかかる。

TNT爆弾。

弾かれる。

ブロックにて妨害。

体当たりで壊される。

……。

エンドラの性質も兼ね備えてる訳か。

強い。

私じゃ、敵わない。

でも、そう簡単に、負けてたまるものですか！

TNTを大量に作成

それはまさに、コマンドブロックで呼び出したかのように。

そして、一気に龍騎士に向かい。

全てが弾かれる。

確かにダメージは入った。

でも、回復する。

……。

今の、全力だよ？

それで、ほぼ無傷。

そして、その上でこれ。

自動回復。

今の私が勝てる要素がない。

……、諦める？

ううん。

諦めない。

諦めなければ、いい。

そうだ。

私だって、全然完全まで至ってる訳じゃないんだ。

だったら、行ける筈。

これで！

TNTを作成。

TNTの爆発方向を意識。

そして、できたのは。

上にくぼみで矢印ができたTNTだった。

しかも、通常より一回り大きい。

……これなら、行ける！

龍騎士に向けて、爆発させる。

そして、

2839 / 5000

HPが、一気に減った。

そして。

1秒後には。

3839 / 5000

千、回復していた。

嘘。

そんな。

ありえない。

一瞬間1000もの回復量？

そんなの、おかしい。

ゲームバランスが崩れる。

それを、ボスにつけるなんて。

考えられない。

くそ！

何か、何か手はないの!?

そんな考えも虚しいだけ。

必死に考えながら、避け続ける。

そして、閃いた。

そうだ。

エンドラはエンドクリスタルで回復する。

なら、その核を破壊すれば？

そして、やってみた。

無理だった。

そもそも皮膚貫通できないし。

諦めた。

シュ

「なんかピンチになってたから来たわよ！」

「大丈夫ですか!?! クリーパーさん！」

ツ
ツ
!

龍騎士弱いじゃん。

「あかり!?後もう一人の人!ありがとう!」

「いいいえ、これくらいは!それよりもです!」

「わかってる!」

それだけ先ほど瞬間移動した少女と話し、私達は下がる。

瞬間、私が立っていた所に龍騎士は剣を突き立て、大地は爆散する。

その威力に再度戦慄しながら会話を開始。

「とりあえず、エンドラで回復する性質を持っているなら多分エンドクリスタルを持っているはずですよ。それを壊しましょう」

「そうだね。…そういえば、君は?」

「私は倉敷悠里です。この世界の名前はないですね。あなたはなんて言うんですか?」

「私はリイだね。よろしくツツ!」

そこで、私に再度攻撃が来る。

なんとか避ける。

「ハアア!」

そこに、悠里さんが攻撃。

胸部に命中するが、ダメージはほぼない。

龍騎士はまたこちらに呐喊してくる。
が。

「えい」

軽い声と共に龍騎士の行動が一気に遅くなる。

「あ、あかりさん。ありがとうございます」

「いいのいいの。それよりもこれを倒すのが先でしょ？」

「そうだね。………どうやってダメージ与えよう」

「ダイヤの剣をあ胸元に突き立てれば？」

「そうですね。私がやります」

これだけの会話をし、悠里さんにダイヤの剣を渡す。

そして、龍騎士の目の前にワープして、攻撃。

パリンツ、ドゴン

「キヤー」

ダイヤの剣が胸元に命中した途端、クリスタルが割れ、爆散。

悠里さんは咄嗟にワープして避けたのでダメージは無い。

そして、その爆発に巻き込まれて龍騎士が死んだ。

……………え？

「……………あ」

龍騎士が、死んだ。

「ええええええ!!?なんで!!あれだけ苦戦したのにあれ突けば一撃なの!!?あんなに苦戦した私はなんなの!!?」

狂乱する私。

その後私は落ち込んだ。

「ま、まあまあ。機嫌を直してくださいよ」

「うう…。あんな簡単に倒せるなんて…」

「あはは……………。まあ、潔く諦めちゃえばいいんじゃない…う…」

今現在私達は家にいる。

フィンちゃんとハクは今ネザーで食事中で、ロクスは採石中。

あの二人はご飯、と言うよりエネルギーチャージかな。

フィンちゃんはマグマに潜ってればいいし。

まあハクは食べるんだけど。

あの子はなんでもいいからね。

最悪骨でもいらしいし。

その場合はたくさん食べなきゃいけないらしいけど。

で、私はというと……。

あんなに簡単に倒せるのに倒せなかった自分に落ち込んでます。

……。

ふう。

いい加減機嫌なおそ。

とりあえず、もつと出来ることを増やさなきゃ。

エリートエンダードラゴンナイト。

そういう名前って事は、少なくともボスはエンダードラゴンじゃない。

もしかしたら、更に上がいるかもしれない。

けど、勝つしかないから。

だから、いつか来るその日の為。

私は少し前に見つけたゲートに飛び込んだ。

暗黒世界

気付いたら闇に包まれた世界にいた。

周りを見渡す。

と、龍騎士に狙われている二人の少女を見つけた。

アークエンダードラゴンナイト

12283 / 15000

グレートエンダードラゴンナイト

6947 / 8000

グレートエンダードラゴンナイト

7823 / 8000

しかも三体に。

私は走りながら、二人の元へ向かう。

居たのは白い少女と緑色の少女。

恐らくスケルトンとゾンビの擬人化キャラだと思う。

「クッソ、おい椎奈！なんか弱点っぽいのか!?」

「……………あるけど、護られる」

「ツチ、打開策は無しか」

「……………でも妃奈姉、あそこにいる人が助けしてくれるかも」

「んなわけね〜」

その二人は会話をしながら戦っている。

二人は私に気付いているようだった。

こつちに確実に視線を向けてたし。

時々攻撃が飛んでくるのも気のせいではない。

さつき止んだけど。

確実に強い。

ゾンビの子は大剣を、スケルトンの子はやけに豪華な弓矢を持って攻撃する。

けど、そろそろきつくなるんじゃないかな。

と思つてると、アークエンダードラゴンナイト（以下最上位龍騎士と呼称）の攻撃がスケルトンの子に掠つてしまう。

吹っ飛ばされ、大ダメージを受ける。

「ツ椎奈！」

「妃奈…姉、大丈夫。攻撃を続けて」

「ツクソ、わかった」

「……………見られないね。」

「じゃ、助けよ。」

「足元を爆発させ、一気に近付く。」

「そして、一気にグレートエンダードラゴンナイト（以下上位龍騎士）の前に躍り出て、真正面からコアを一突き。」

「そして足元を爆発させ、後ろに後退。」

「直後上位龍騎士一体は爆発して消え去った。」

「……………ほら、妃奈姉。助けてくれた」

「……………おう、そうだな」

「若干ゾンビの子、妃奈って名前らしいけど……………その子が困惑してる。逆にスケルトンの子は予想してたみたい。」

「まあ、今は気にする事じゃない、はず。」

「ねえ、二人とも。とりあえずあの残り2体を潰そ。それからだよ話は」

「……………ああ、わかったぜ」

「……………ん」

「そして、戦いは再開した。」

初手は私：ではなく妃奈。

圧倒的な脚力で間合いを詰めて、上位龍騎士の胸中心にあるコアを攻撃。防がれる。相殺される。

だが、吹き飛ばされはしない。

その隙にスケルトンの子が弓を放ち、コアに当たる。

妃奈はその瞬間下がり、爆発には巻き込まれない。

私は最上位龍騎士に突撃。

小型TNTを五つ程投げ、攻撃。

ダメージは入らないけど、それでも十分。

剣で爆風を斬り刻んでいる時、私は攻撃する。

それは胸に突き刺さり、爆発。

そして、三体の龍騎士との戦いはこうして終了した。

姉妹の二人と迷宮

「……ところで、貴方は誰？」

戦いが終わった直後、スケルトンの子は聞いてきた。

「私はクリーパーのリイ。よろしくね。で、貴方達は……」

「俺は妃奈。さつきはありがとな」

「……私は椎奈。よろしく」

自己紹介が終わったところで。

「そういえば、ここにはクリーパーなんていないんだが。お前は どうしてここに
いるんだ？」

「え？」

「……クリーパーいないのか。」

まあ、それはおいおい考えるとして。

「私はなんかあったゲートをくぐってこの世界に来たよ。貴方達は？」

「……ゲート、か。俺達は元々この世界にいたから分からねえな」

「……そっか」

そして、そこから驚愕（笑）の事実が発覚する。

「まあ、マイクラに合わせるとしたら俺達の同種もいないな。いるのはさつきみみたいなエンドラの擬人化騎士だけだな」

「……………今はそれ以外見つけてない。少なくとも」

……………どうやら私は大変な世界に来てしまったらしい。

エンドストーンを爆発で掘り進む事10分。

斜めに掘り進んだ結果、辿り着いたのは迷宮だった。

その迷宮を進んでいる最中から見たことがないブロックが出てき始めていたが、気にせず進む。

隕鉄ブロックだけは採掘してきた。

その後出たのは、自動ドアが入り口になった迷宮だった。

その迷宮の壁。

それはゲーム時代では見たこともないブロックだった。

そのブロックに意識という名のカーソルを合わせる。

こうする事でアイテム名を知れる事は既にわかっている。

すると、機械ブロックと出た。

機械ブロック。

一体何かと思えば解説が、出る。

機械が詰まったブロック。

特殊な道具を使わなければ破壊ができない。

……。

出鱈目な性能。

とりあえず、この迷宮は後回しにしようと思いつつそこから去った。

とりあえずこつちの世界での仮拠点が作成完了した。

エンドラナイトしかない現状、エンドストーンを使わなきゃ話にならない。

というわけで使った。

これでエンドラナイトはこの壁を壊せない。

「……………なあ、なんか装備ないか？なんでもいいぞ」

「……………え？なんで？というか多分装備できないよ？」

「は？何故？」

「……………妃奈姉気付かなかった？この服装備」

「……え」

その後そんな会話が あったが、気にしない。

とりあえずこれからの方針を決める事にした。

「……………とりあえずその迷宮を突破すればいいんじゃないか？」

「そうだね。……………椎奈は？」

「…それでいい」

と言つてもすぐに決まった。

そして、迷宮を突破する事が確定した。

「じゃあ、武器を整えてからいい。あそこにたどり着くまでにあった隕鉄ブロックで素材はある。だから、新しい弓とか大剣も作れるよ」

「…よろしく」

「じゃ、お願いするぜ」